

6 食育授業の実践

(1) 第1学年 学級活動「はなまるあさごはんをたべよう」

食育関連授業…I型

第1学年2組 学級活動指導案

日時 平成28年11月17日(木) 第2校時

場所 1年2組教室

指導者 教諭 永田 哲雄 (T1)

栄養教諭 田代 優子 (T2)

教諭 濱口 寿子 (きらめき学級)

○研究テーマ 食から見つめ直す健やかな心と体
～学校・家庭・地域の連携を通じた自己管理能力の育成～

○目指す子どもの姿 (低学年)
食品の種類や栄養に関心を持ち、感謝して食事ができる子ども

1 題材名 「はなまるあさごはん」をたべよう

2 題材について

(1) 題材のねらい

本題材は、学習指導要領に示されている学級活動の内容(2)「日常生活や学習への適応及び健康安全」のキ「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」を受けて設定したものである。

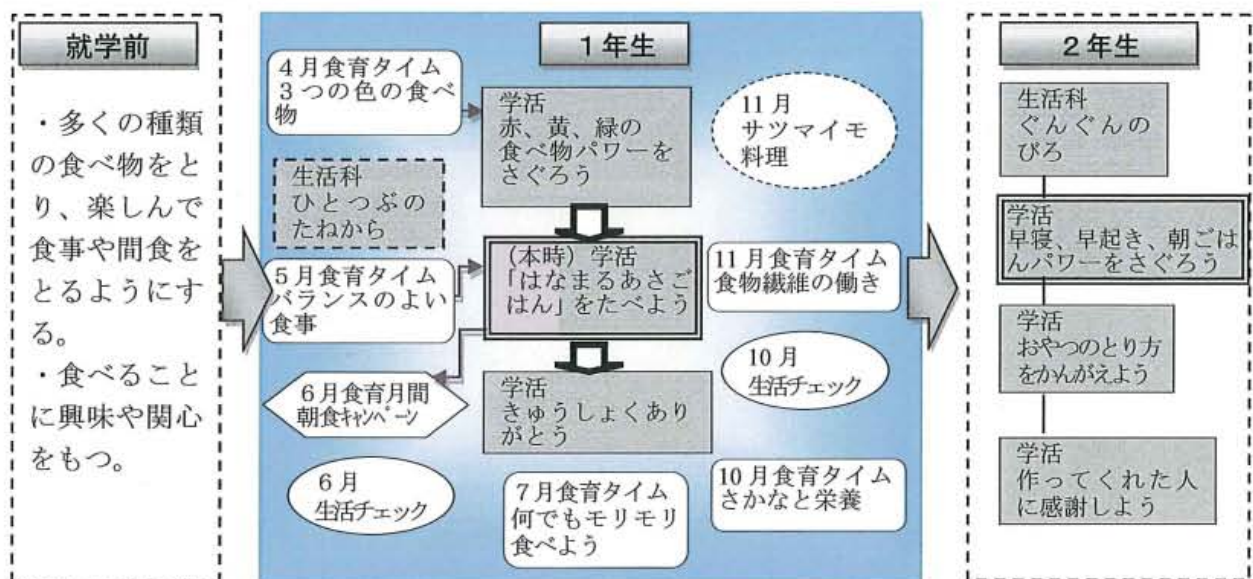
朝食はその一日の力の源である。栄養バランスのよい朝食をとると、体が目覚め、元気に一日をスタートさせることができる。

本学級の児童は、給食を概ね好意的にとらえている。しかし、朝食に関しては、3品(黄、赤、緑)を毎日食することができていない児童がいることや、家庭で用意された朝食をそのまま食べて登校しているのが現状である。

そこで、本題材は、食べ物のはたらきを知り、栄養バランスのよい朝食をとろうとする態度を育成するために設定した。

本題材により、児童一人一人が栄養バランスを整えようと行動するきっかけとなり、食品の種類や栄養に関心を持ち、感謝して食事ができる子どもの育成を目指すことができるものとする。

(2) 系統 (本題材に関する「食育ユニット」)



(3) 児童の実態 (男子14人、女子16人、計30人)

質問内容	回答の様子
① 給食は好きですか。	好き(17人) まあまあ好き(9人) どちらかという嫌い(4人)
② 苦手な食べ物は何か。	豆(3人) しいたけ(2人) ピーマン(2人) トマト(2人) なす(2人) にんじん(1人) とりにく(1人)
③ 朝ごはんを食べていますか。	毎日食べている(23人) 時々食べない(7人)
④ 朝ごはんをどのくらい食べていますか。	3品(12人) 2品(14人) 1品(4人)
⑤ 朝ご飯にどんなものを食べていますか。	3品: ご飯+味噌汁+卵料理 2品: ご飯+納豆、ご飯+味噌汁 1品: ごはん、おにぎり、パン

本学級の児童は、給食を概ね好意的にとらえている。しかし、一人一人の食べる量や好き嫌いの実態には差があり、苦手な食べ物を挙げさせると野菜が上位を占めている。献立に苦手なものがあると完食に時間を要したり、残したりしてしまう様子が見られる。また、箸の使い方や交互に食べることに課題がある児童が10人ほどいる。食べる量については、児童の半数程が、一旦配膳された量を完食することが難しく、量を減らして給食を食べている。中には、「食べたことがない」、「おいしそうじゃない」など、見た目で判断して量を減らそうとする児童もいる。

本学級では、毎日給食前に「今日の献立」を確認し、食べ物の簡単な仲間分けにも取り組んでいる。「ごはんは黄色の仲間」、「野菜は緑の仲間」、などという基本的な知識が身につけてきているが、食品の色(「トマトは赤の仲間」と答える等)で仲間分けをする児童もいる。

朝食については、朝食をとることが毎日の習慣になっていない児童がいることがわかった。内容については、3品そろった「はなまるあさごはん」まであと一步の児童が14人であった。また、1品と答えた児童4人は、パンやごはんのみを食べてくることが多いと回答した。

以上のことから、本学級の児童は、3品そろった朝食の大切さや食品の栄養やはたらきについて、まだ理解していないことがわかる。

本時では、「はなまるあさごはん」について児童に理解させるとともに、毎日の「はなまるあさごはん」が、自分たちの成長と活動のエネルギー源になっていることに気づかせたい。さらに、学習した内容を保護者にも知らせ、「はなまるあさごはん」の大切さについて啓発していきたい。

(4) 指導上の留意点

【食に関する指導の重点について】

- ① 食事の重要性…黄・赤・緑の食品が、健康な体づくりに欠かせないことを知る。
- ② 心身の健康…食べ物の働きを知り、バランスよく食べようとする。
- ③ 感謝の心…食事を作る側の思いや工夫を知り、感謝して食べる。

【本校の研究の視点】・【食育授業の「さ」「し」「す」「せ」「そ」について

※「さ」…さがす・「し」調べる・「す」ステップアップ・「せ」生活にせまる・「そ」育てる

視点① 食への興味・関心を高め、正しい知識と望ましい食習慣を定着させる学習指導の工夫

「さ」…「はなまるあさごはんチェック」を通して、自分の課題を知る。

「さ」…「食育ロード」の朝食の掲示物や栄養教諭の指導などを思い出させ、「はなまるあさごはん」への興味を高めておく。

「し」…望ましい朝食にするために「あさごはんえいようマップ」を活用し、バランスのいい朝食をとることへの意識を高めたり、家庭で実践する際の活用の仕方を知らせたりする。

「す」…望ましい朝食の指導の際には栄養教諭を活用し、朝食のはたらきや3品そろえることの大切さを目を向けさせる。

視点② 健やかな心と体づくりにつながる自己管理能力を高める日常指導の工夫

「さ」…栄養教諭の指導により3品そろえる意義について理解させ、自分の体のことを考えて進んで食べようとする意欲を高められるようにする。

「し」…「食育タイム」、「食育ロード」を活用し、望ましい朝食に対する意識を高める。

「せ」…「はなまるあさごはんチェック」に毎日取り組むことで、学びをいかす場を確保する。

「そ」…本時の活動において全体や個人、グループで、望ましい朝食について考えることで、家庭での実践力を高められるようにする。

視点③ 食や運動の課題を見つめ、変容を実感する調査・分析・啓発の工夫

「さ」…日常の食生活の課題と授業、さらに実践を結ぶ「はなまるあさごはんチェック」を作り、自己の課題を明らかにするとともに、課題解決の成功体験を積み重ねられるようにする。

視点④ 学校・家庭・地域が連携し、望ましい食習慣と体づくりへの関心を高める食育活動の推進

「そ」…「はなまるあさごはんチェック」を持ち帰らせて保護者からもコメントをもらうことで、望ましい朝食をとろうとする実践力を高める。

【人権が尊重される授業づくりの視点及びUD教育の視点】

- ・個の気づきを、他と共有する場作りを行うことで、自分の考えを表現できるようにする。
- ・「はなまるあさごはん」にするための、お互いの考えを認め合うことができるようにする。

【道徳教育との関連】〔価値項目A－(3)〕節度、節制

- ・健康に気をつけることの大切さを知り、よりよい生活をしようとする心情を育てる。

3 題材の目標及び評価規準

- 食べ物のはたらきを知り、好き嫌いせず、バランスのよい朝食をとろうとしている。
- 朝食を用意してくれる家族の思いや朝食の大切について考え、毎朝3品をとることを実践しようとしている。
- 3品のそろえ方を知り、バランスよく食べることの効果を理解している。

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
朝食と元気な心や体との関係について関心を持ち、毎朝「はなまるあさごはん」をとろうとしている。	朝食のとり方についての自分の課題に気づき、朝食を用意してくれる家族に対する感謝の気持ちや朝食の大切さについて考え、「あさごはんえいようマップ」を活用して毎朝3品をとることを実践しようとしている。	3品がそろった「はなまるあさごはん」の大切さを理解している。

4 単元の指導計画及び評価基準（1時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	関	思	知	評価基準及び評価方法	食育の視点
事前	1 朝食に関する実態調査を行う。 2 給食の献立に含まれる食品の仲間分けをする。 3 朝食内容について「はなまるあさごはんチェック」に記録する。	・自分の食生活を振り返らせる。 ・食材やそのはたらきに関心をもたせる。 ・自分の朝食のバランスに関心をもたせる。	○			<u>関心・意欲・態度</u> 【観察・シート】 ・普段とっている朝食のバランスや食材のはたらきに関心をもって活動している。	普段の朝食の内容や朝食のはたらきに興味、関心をもつ。 【食事の重要性】
本時	1 朝食に関する実態調査や食育チェックブックの集計結果をもとに、「はなまる朝ごはん」のよさへの関心を高める。 2 「はなまるあさごはん」をとるものの大切さについて理解する。 3 「はなまるあさごはん」づくりにチャレンジして、友だちと意見を出し合う。	・なぜ一品でよいのかを考えさせることで、「はなまるあさごはん」のよさについて考える意欲を高めさせる。 ・栄養教諭の説明により「はなまるあさごはん」をとることの大切さについて理解させる。 ・自分なりの3品のそろえ方について考えることで、家庭でも自ら「はなまるあさごはん」にしようとする意欲を高めさせる。	○		○	<u>関心・意欲・態度</u> 【観察】 ・「はなまるあさごはん」のよさについて、自分なりの考えを持つことができる。 <u>知識・理解</u> 【シート・発表】 ・「黄・赤・緑のなかま」のバランスをよくすることが大切であることを理解している。 <u>思考・判断・実践</u> 【シート・発表】 ・「あさごはんえいようマップ」を活用し、バランスのとれた自分なりの朝食を考えることができる。	元気な心と体にするために、どんな朝食にするとよいか考える。 【心身の健康】 「黄・赤・緑のなかま」が、健康な体づくりに欠かせないことを知る。 【食事の重要性】 「黄・赤・緑のなかま」のはたらきや朝食の大切さについて考える。 【心身の健康】
事後	1 毎朝の「食育チェック」の際に「はなまるあさごはんチェック」も記入し、自分の朝食を振り返る。	・自分で決めためあてを意識させ、バランスのとれた食事をとろうとする意欲を継続させる。		○		<u>思考・判断・実践</u> 【観察・シート】 ・自分で決めためあてを達成しようと努力している。	「はなまるあさごはん」を、毎朝そろえようとしている。 【心身の健康】

5 本時の学習

- (1) 目標 栄養バランスのよい朝食をとることの大切さを理解し、「あさごはんえいようマップ」をもとに、「はなまるあさごはん」の内容を考えることができる。
- (2) 食に関する指導内容 食べ物のはたらきを知り、バランスよく食べようとする。【心身の健康】
- (3) 展開

過程	時間	学習活動	主な発問・指示(T)児童の反応(◇)	指導上の留意点及び評価	準備物
つかむ	5	1 朝食の例(黄・赤・緑がそろったものと1品だけのもの)を比較する。 2 本時のめあてを確認する。	T1、T2 永田先生と田代先生の朝ごはんを比べてみましょう。 ◇田代先生の方がおいしそうです。 T1 どちらが「はなまる」ですか。 ◇田代先生だと思います。	・パンだけの朝ごはんは黄・赤・緑がそろった朝ごはんを提示し、何がたりないかを考えさせる。 ・本時の学習に興味をもてるように黄・赤・緑の食材を確認する。	朝食の写真
考える	8	3 なぜ3品食べることが大切なのかを知る。 4 「あさごはんえいようマップ」を参考にして、3品そろった朝食にする。 7 5 自分で「はなまるあさごはん」の内容を考え、ワークシートに書く。	T1 どうして田代先生の朝ごはんがはなまるなのでしょう。 ◇永田先生の朝ご飯は、野菜がないからです。 ◇田代先生の朝ご飯は、黄・赤・緑がそろっているからです。 T2 黄・赤・緑の食べ物は、それぞれが頭や体、お腹のスイッチを入れるために大切です。 T1 永田先生の朝ごはんを、「はなまるあさごはん」にしましょう。 ◇味噌汁をつけます。赤だからです。 ◇バナナをつけるといいです。緑からです。 T1、T2 自分で「はなまるあさごはん」を選びましょう。 ◇黄・赤・緑から一つずつお皿にのせました。	【徹底指導】(ポイント) ◎「はなまるあさごはん」は、黄・赤・緑の3品がそろったものであることや、健康な生活を送るために大切であることを理解させる。 ・給食が食事のお手本になっていることにも気づかせる。 ・なぜその食材を選んだのかを考えさせることで、3品のそろえ方への理解を深めさせる。 【能動型学習】(ポイント) ◎「あさごはんえいようマップ」を使って、バランスのとれた3品をそろえられるようにする。	黄・赤・緑のカード 「体のスイッチ」揭示物 給食の写真 「あさごはんえいようマップ」食べ物カード ワークシート
伝え合う	7	6 グループで、お互いが考えた「はなまるあさごはん」について話し合う。 【言語活動】(設定の意図) 「はなまるあさごはん」について話し合う活動を通して、黄・赤・緑の3品のそろえ方についての考えを深める。 7 7 全体で「はなまるあさごはん」について考える。	T1、T2 自分が考えた「はなまるあさごはん」を友達におしえてあげましょう。また、黄・赤・緑がそろっているかをグループのみんなで確かめましょう。 ◇ごはんがきいろです。 ◇頭のスイッチはオッケーだね。 ◇赤がないよ。納豆はどうかかな。 ◇ぼくもトマトにしたよ。 【評価】 ◆集団の一員としての思考・判断・実践 「あさごはんえいようマップ」を参考に、黄・赤・緑の3品をそろえることについて考えることができる。【ワーク・発言】	・グループで「はなまるあさごはん」の大切さについて考えさせる。 ・3品(黄・赤・緑)そろっているかをグループで確認させる。 <評価に達していない児童への手立て> 「あさごはんえいようマップ」を用いて具体例を示し、黄・赤・緑の3品を選択できるようにする。	確認のためのシート
振り返る	7	8 学習を振り返る。	T1 「はなまるあさごはん」の学習をして、これからがんばりたいことややってみようことをワークシートに書いて、発表しましょう。 ◇黄・赤・緑を毎朝食べます。 ◇自分で選んでみようと思います。 ◇残さず感謝して食べます。	・自分でできることはやってみようという意欲を高めさせる。	ワークシート

第1学年 学級活動 「はなまるあさごはん」をたべよう 授業の様子

■食育授業の「さ」…さがす

毎朝全校で取り組んできた「朝ごはんチェック」や1学期に学習した「赤、黄、緑の食べ物パワーをさぐろう」、毎日の食育タイムで身に付けた知識等をもとに朝食について考えることを確認した。

■食育授業の「し」…調べる・知る

栄養教諭から、朝食で「赤、黄、緑」をそろえることの大切さについての話を聞いた後、指導者が示した朝食の例をより良いものにしようと考えたり、「あさごはんえいようマップ」を活用しながら望ましい朝ごはんメニューを考えたりした。

■食育授業の「す」…ステップアップ

児童がそれぞれに考えた朝ごはんメニューについてグループで意見を出し合い、栄養教諭から学んだ「赤、黄、緑」がそろった「はなまるあさごはん」になっているかどうかや、朝食の大切さについて考えを深めた。

■食育授業の「せ」…生活にせまる

グループで意見を交換した後、自分たちで考えた朝ごはんメニューについて学級全体で話し合った。児童から出た3つの例をもとに栄養教諭から評価やアドバイスをもらい、それぞれが「はなまるあさごはん」となっていることを確認した。

■食育授業の「そ」…育てる

学習したことを振り返るとともに、「明日の朝から自分にできることを考える」という目的で本時の学習のまとめを書いた。

<成果(○)及び課題(▲)>

- 本時までに取り組んできた「朝ごはんチェック」や1学期に学習した「赤、黄、緑の食べ物パワーをさぐろう」の授業、毎日の食育タイムで身に付けた知識、学習前に行った「はなまるあさごはんチェック」等をもとに、あらためて朝食の大切さについて考えさせたので、学習に臨む児童の意識が高まっていた。
- 自分で考えたことをもとに、グループで話し合うことで、気付きが増えたり、考えを深めたりすることができた。
- 栄養教諭と共に授業を行うことで、発達段階に応じた食育に関する知識や技能を身に付けさせることができた。

▲ 食に関しては、家庭（保護者）に依存するところが大きいので、連携をとりながら継続的な指導をする必要がある。



し【担任が示した朝食献立を考える】

どれが「赤、黄、緑」かな。



す【朝食に「赤、黄、緑」をそろえることの大切さについて学習する】

「赤、黄、緑」のそろった朝ごはんは、「3つのスイッチ」をいれてくれます。



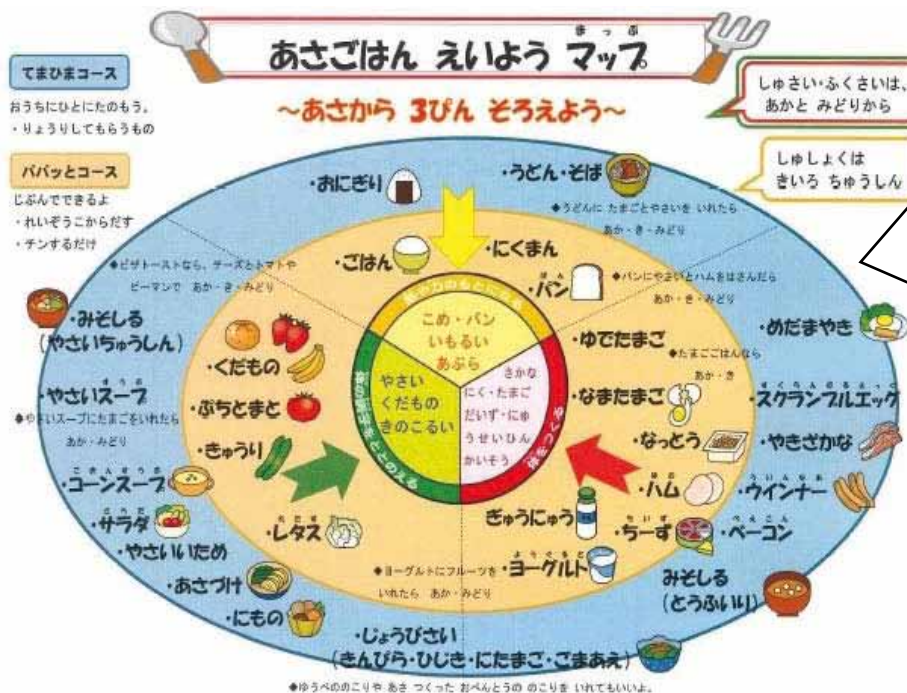
せ【「あさごはんえいようマップ」を参考にしながら、「はなまるあさごはん」について考える】

はなまる あさごはんを たべよう！ なまえ()

◎じぶんの はなまる あさごはんを かんがえましょう。

本時のワークシート

- ①まず、個人で「赤、黄、緑」の食材をそろえることに注意して、自分なりの朝食を考える。これをもとに、グループで意見交換をしながら考えを深めていく。
- ②学習したことを振り返るとともに、自分にもできることを考えるという目的で、本時の学習のまとめを書く。



『あさごはん えいようマップ』

自分で朝食を3品そろえることについて考える際に活用する。
また、毎朝の「朝食チェック」を行う際や、「食育タイム」でも、継続的に活用する。

(2) 第2学年 生活科「めざせ！野さいはかせ」

食育関連授業…Ⅱ型

第2学年2組 生活科学習指導案

日時 平成28年11月17日(木) 第3校時
 場所 2年2組教室
 指導者 教諭 愛甲 裕子(T1)
 栄養教諭 田代 優子(T2)
 講師 佐無田 園子(きらめき学級)
 支援員 宮原 留美

○研究テーマ 食から見つめ直す健やかな心と体
 ～学校・家庭・地域の連携を通じた自己管理能力の育成～

○目指す子どもの姿(低学年)
 食品の種類や栄養に関心を持ち、感謝して食事ができる子ども

1 単元名 「めざせ！野さいはかせ」(啓林館 下)

2 単元について

(1) 単元のねらい

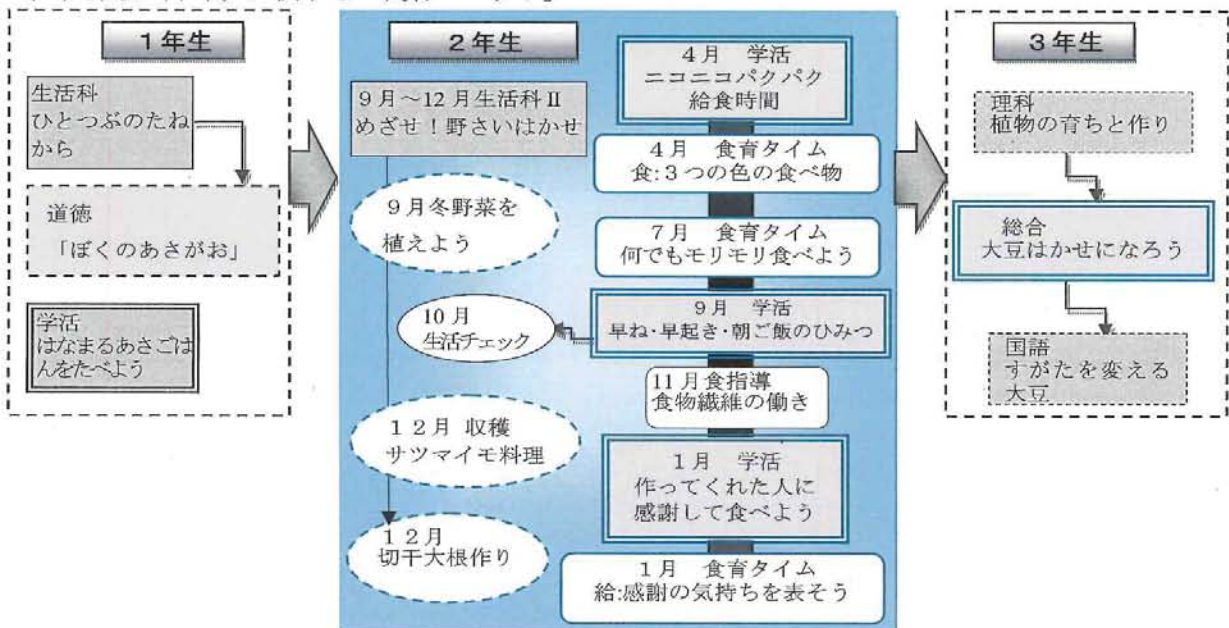
本単元は、学習指導要領に示されている生活科の内容(7)「動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。」を受けて設定したものである。

子どもたちは、1年時の「ひとつぶのたね」において、アサガオの花を咲かせ種を取るという一連の栽培を通して、きれいな花が咲いた喜びと多くの種ができた驚き、達成感を感じることができた。冬には球根を植え、春には美しい花を見る喜びを感じることができた。それらの学習を通して、様々な気づきをもとに植物の生長や命について学んできた。

本単元では、これまでの栽培経験をもとに、より手間のかかる野菜を継続的に栽培する過程で、さらに植物への親しみをもち、世話をする楽しさや大変さを学び、野菜の収穫という大きな喜びを味わうことができる。また、自分が育てたい野菜を栽培することで、よりよい生育条件にも目が向き、栽培への意欲を高めるとともに、それぞれの野菜の生長の様子や違いへの気づきを共有し合うことで、気づきの質を高めることができる。さらに、継続的な栽培活動の様子や気づきを記録に残したり、他に伝えたりして活動を振り返り、次の栽培活動への期待につなげることができる。

子どもたちの栽培活動の実態や食育推進上の課題を把握し、1年次の食育プログラムでの学習を生かしながら、児童自身の食生活上の課題に関する学びも深められるようにしたい。

(2) 系統(本単元に関する「食育ユニット」)



(3) 児童の実態 (男子20人、女子12人、計32人)

質問内容	回答の様子
①生活科の勉強が好きですか。	大好き19人 好き13人 どちらかと言えば嫌い0人 嫌い0人
②生活科では、どんな学習が好きですか。	栽培19人 探検27人 飼育18人 話し合い15人 調べる12人 質問5人 発表4人
③野菜が好きですか。	大好き14人 好き13人 どちらかと言えば嫌い3人 嫌い2人
④好きな野菜は何ですか。	トマト、キュウリ、ニンジン、オクラ、エダマメ、キャベツ等
⑤嫌いな野菜は何ですか。	ピーマン、トウモロコシ、ゴーヤ、しいたけ、ニンジン、ナス、キャベツ、トマト、タマネギ
⑥嫌いな理由は、何ですか。	おいしくない、味が慣れない、にがみ等
⑦どうしたら野菜はよく育ちますか。	水やり22人 回数と量を考えて水やり7人 肥料をやる3人
⑧野菜を比べて同じ所はどこですか。	水が必要であること、花が咲く、種が入っている、葉がある、茎がある等
⑨野菜を比べて違うところはどこですか。	収穫できるまでの時間、形・色・大きさ、実の色の変化、味
⑩野菜の可食部についての正答率	トマト、ピーマン・・・約90%、ダイコン、サツマイモ、ブロッコリー、ゴボウ、ハクサイ、ナス、ニンジン、エダマメ・・・10%以下
⑪夏にとれる野菜は何ですか。	トマト、キュウリ、ナス、ピーマン、ゴーヤ、エダマメ、スイカ等
⑫冬にとれる野菜は何ですか。	ニンジン、ホウレンソウ、ジャガイモ、ネギ、トウモロコシ等
⑬学校以外の野菜の栽培経験	トマト5人、キュウリ1人、ゴーヤ1人

本学級の児童は、生活科の学習を楽しみにしている。理由として、栽培や探検、話し合い活動を挙げているが、話し合い活動については、個人の発表に終始し視点に沿って意見を出し合うまでには至っていない。野菜については、8割以上の児童が好きと言っていることが分かる。好きな理由として多かったのは、おいしい、健康に良い、栄養がある等、野菜の良さについて好意的に受け止めている。嫌いな理由としては、おいしくない、苦い等、味に抵抗感を感じていることが分かる。給食では、最近、苦手なものにより完食が遅くなる児童もいるが量の調節等を行い、完食することができている。野菜栽培に必要な世話については、夏野菜の栽培を通して、水やり等が必要なことを理解している。野菜の特徴については、花が咲くこと、種があることや見た目の違いや味の違い等には気付いているが、野菜の食べる部分やとれる時期について、生活経験等の差が大きくほとんどの児童が理解していない。

(4) 指導上の留意点

- ・ 個人での気づきを他と共有し、観察し合ったり話し合ったりすることで気づきを広げたり深めたりして気づきの質を高められるようにする。
- ・ 野菜ニュースを作ることで、自分や友達の学びを振り返り、気づきを広げたり深めたりする。

【食に関する指導の重点について】

- ①食事の重要性…野菜の栄養や旬のよさ、野菜にも生命があることを知り、好き嫌いせず食べようとする。
- ②心身の健康…健康な体づくりのために野菜は欠かせないことを知り、進んで食べようとする意欲をもつ。
- ③感謝の心…野菜栽培の手間や工夫を知り、生産や調理に携わる人に感謝する心をもつ。

【本校の研究の視点】・【食育授業の「さ」「し」「す」「せ」「そ」について

※「さ」さがす・「し」調べる・「す」ステップアップ・「せ」生活にせまる・「そ」育てる

視点① 食への興味・関心を高め、正しい知識と望ましい食習慣を定着させる学習指導の工夫

- 「さ」…自分の鉢で夏野菜を育て、栽培方法や野菜の生長の様子、特徴への関心を高める。
- 「し」…苗の植え方や野菜の育て方は、JAや生産者による説明を聞くことにより、野菜栽培の苦労や工夫についても理解を深めたり、収穫の達成感につなげたりする。
- 「す」…野菜の特徴については、栄養教諭の専門的な説明を聞くことにより、野菜の働きや旬の野菜のよさ等に目を向けさせる。

視点② 健やかな心と体づくりにつながる自己管理能力を高める日常指導の工夫

- 「さ」…児童が苦手としている野菜の働きについて栄養教諭の話聞く場を設けることで、体のことを考えて進んで食べようとする意欲を高められるようにする。
- 「し」…「食育タイム」で「旬の食材」及びICT教材を活用し、季節による食材の違いに気付かせる。
- 「せ」…学びを生かして生活上の課題に目を向ける場を確保する。

視点③ 食や運動の課題を見つめ、変容を実感する調査・分析・啓発の工夫

- 「さ」…授業での学びを生かし、「野菜を進んで食べることができた。」等の生活の中で変容が見られたことについて価値づけを行い、他の児童へも広げる。

視点④ 学校・家庭・地域が連携し、望ましい食習慣と体づくりへの関心を高める食育活動の推進

- 「し」…JAや生産者等の専門家による説明を聞くことにより、野菜栽培の苦労や工夫について理解を深めることで、食事ができることへの感謝の気持ちや食事を大切にする心情を深める。
- 「そ」…学習カードや野菜の観察記録を持ち帰ったり、収穫した野菜で家庭調理を行ったりすることで、学校での学びを家庭での実践力へつなげる。

【人権が尊重される授業づくりの視点及びUD教育の視点】

野菜の種類ごとに班を編制し、よりよい栽培方法への気づきを「共有」し、「協働」できるようにする。個の気づきを他と共有する場を設定することで、自分の考えを表現し、それぞれの見方や感じ方を認め学び合うことができるようにする。

【道徳教育との関連】【価値項目D-18】自然愛護

身近な自然に親しむことで、自然と人間との関わりを知り、動植物に優しい心で接する。

3 単元の目標及び評価規準

身近な植物に興味・関心をもち、それらに生命があることに気付くとともに、植物を大切にすることができるようにする。

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気づき
植物を意欲的に育て、その生長に興味・関心をもつ	植物を育てながら気付いたり感じたりしたことを、自分なりの方法で表している。	植物が生命をもっていることや生長していることに気付いている。

4 単元の指導計画及び評価基準（15時間扱い 本時は8/15時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	関	思	気	評価基準及び評価方法	食育の視点
1	1	育てたい野菜を決める。	継続的な栽培活動への意欲をもたせる。	○			<u>関心・意欲・態度</u> 【態度・発言】 栽培する時期や場所を考え野菜の苗を選ぼうとしている。	緑の食べ物の働きに興味を持つ。【 <u>食の重要性</u> 】
	2	苗を植えて観察する。	苗の様子を詳しく観察し、絵と言葉で表現させる。			○	<u>気づき</u> 【発言・ワークシート】 育ち方を予想し、野菜の苗の特徴に気付いている。	育てる野菜の特徴を知り、好き嫌いせず食べようとする。
	3	サツマイモの苗を植える。	苗の様子や植え方の違いに目を向けさせる。			○	<u>思考・表現</u> 【態度・行動】 苗の違いに気づき、植え方の違いを意識して植えている。	【 <u>心身の健康</u> 】 野菜の育ち方の違いや栄養について知り、生産者の苦労や工夫を知り、感謝する。【 <u>感謝の心</u> 】
	4	野菜の育て方を調べる。	枝の誘引作業やわき芽摘みなどに目を向けさせる。	○			<u>関心・意欲・態度</u> 【ワークシート】 本や人に聞いたりして、栽培方法を調べようとしている。	
	5	野菜を収穫する。	栽培活動を振り返り、収穫の喜びに目を向けさせる。			○	<u>思考・表現</u> 【行動・発言】 栽培活動を振り返り、みんなで喜びを分かち合い収穫する。	
本時 8 / 15	6	秋まきの野菜作りの準備をする。	おいしく育つ土作りへの意欲を高める。	○			<u>関心・意欲・態度</u> 【態度・発言】 栽培時期や場所を考えようとしている。	育てる野菜の栄養を知り、好き嫌いせず、食べようとする。
	7	大根の種をまく。	種の様子を観察させ、育ち方を予想させる。			○	<u>思考・表現</u> 【発言・ワークシート】 育ち方を予想し、種の特徴に気付いている。	【 <u>心身の健康</u> 】 野菜の育ち方の違いや栄養について知り、生産者の苦労や工夫を知り、感謝する。【 <u>感謝の心</u> 】
	8	夏野菜と冬野菜を比べる。	育つ場所や食べる部分等の特徴に気付かせる。			○	<u>気づき</u> 【発言・ワークシート】 苗の変化や成長、野菜の育つ場所の違いについて考え、特徴に気付いている。	【 <u>感謝の心</u> 】 食料生産は、自然の恩恵の上によることを知る。生産に携わる方の思いに気付いている。
	9	サツマイモを食べる計画を立てる。	自然の恵みに感謝し、野菜の食べ方に関心をもたせる。	○			<u>関心・意欲・態度</u> 【ワークシート】 本や人に聞いたりして、おいしい食べ方を調べようとしている。	【 <u>感謝の心</u> 】 食料生産は、自然の恩恵の上によることを知る。生産に携わる方の思いに気付いている。
	10	サツマイモを収穫する。	栽培活動を振り返り、収穫の喜びに目を向けさせる。			○	<u>思考・表現</u> 【行動・発言】 栽培活動を振り返り、みんなで喜びを分かち合い収穫する。	【 <u>感謝の心</u> 】
	11	サツマイモを調理する。	生産の大変さや喜び等の感想を交流し、料理を楽しませる。			○	<u>気づき</u> 【態度・行動】 地域の伝統的なサツマイモ料理の仕方が分かる。	伝統料理のよさを知る。【 <u>食の文化</u> 】
	12	大根を収穫する。	栽培活動を振り返り、収穫の喜びに目を向けさせる。			○	<u>思考・表現</u> 【行動・発言】 生産の喜びを感じ、大切に収穫しようとしている。	野菜の特徴や野菜にも生命があることを知り、進んで食べようとする。【 <u>食事の重要性</u> 】
	13	切干大根を作る。	郷土に残る保存食作りに関心をもたせ、保存できる切干大根に関心をもたせる。			○	<u>気づき</u> 【態度・行動】 生産や調理に携わる方の思いに気付いている。	
3	14	野菜ニュース	栽培活動を振り返り、分かったことや広めたいことを選択してまとめ、発表させる。			○	<u>思考・表現</u> 【ワークシート・発言】	食料の生産は、自然の恩恵の上
	15	を伝える。				○	<u>気づき</u> 【発言・ワークシート】 栽培を通して気付いたことを分かり易く伝えるための工夫をしている。	に成り立っていることを知る。【 <u>感謝の心</u> 】

5 本時の学習

(1) 目標 育つ場所や食べる部分等の違いに目を向け、夏野菜と冬野菜を比べることを通して、それぞれの特徴に気付くことができる。

(2) 食に関する指導内容

野菜の特徴(旬・栄養等)や野菜にも生命があることを知り、進んで食べようとする。【食事の重要性】

(3) 展開

過程	時間	学習活動	主な発問・指示(T) 児童の反応(◇)	指導上の留意点及び評価	準備物
つかむ	5	1 野菜クイズをして、育ててきた夏野菜と冬野菜を想起する。 2 本時のめあてを確認する。	T1 野菜クイズをしましょう。 ◇トマトです。 ◇キュウリです。 ◇サツマイモです。 夏やさいと冬やさいをくらべよう。	・今まで栽培してきた野菜を想起させる。 ・T2は、クイズの補助を行う。	パワーポイント
考える	3	3 野菜博士になるための過程を振り返る。	T1 野菜博士になるために、さらに野菜に詳しくなしましょう。	・「野菜博士までの道」を提示し、学習への意欲を高める。 徹底指導 (ポイント) ◎育つ場所、食べる部分、栄養等に注目させ、それぞれの特徴に気付かせる。	野菜の写真
	5	4 様々な視点で野菜を比べ、夏野菜と冬野菜の特徴について考える。 5 (1) 食べる部分の違いを考える。(一斉)	T1 食べる部分を考えましょう。 ◇トマトは、実を食べます。	能動型学習 (ポイント) ◎視点をもたせて野菜を比べ、考えを交流することで、気付きを広げたり深めたりさせる。	
	5	(2) 育つ場所の違いを考える。(グループ)	T1 育つ場所を考えましょう。 ◇サツマイモは、育っているところが見えないから、土の中です。	・食育プログラムや食育タイムの知識や体験を手がかりに、野菜の特徴について、共通点や相違点をまとめるようにする。	ホワイトボード
	5	(3) 栄養教諭から、育ててきた野菜の栄養の特徴について教えてもらう。	T1 田代先生から、野菜の栄養の話をお聞きしましょう。 T2 キュウリは、体を冷やす効果があります。大根は、体を温める効果があります。	◆身近な環境や自分についての気づき B基準 育つ場所や食べる部分、栄養の視点で夏野菜と冬野菜の特徴に気づいている。(発言・ワークシート)	パワーポイント資料
つたえ合う・深める	12	(4) 夏野菜と冬野菜の相違点について気付いたことを発表する。(個人→グループ→全体) 【高語活動】(設定の意図) 今までの知識や育てた経験をもとに野菜を比べ、相違点について気付いたことを伝え合うことで、夏野菜と冬野菜の特徴への理解を深めることができる。	T1 夏野菜と冬野菜を比べて気づいたことを書きましょう。 ◇冬の野菜は、土の中や土のすぐ上で育つものが多い。 ◇夏野菜は、色が色々あります。 ◇夏野菜は、実を食べるのが多いけど、冬の野菜は、根や葉を食べるのが多いです。 ◇夏は暑いから、体を冷やす野菜が多いのかな。 ◇冬は寒いから、土の中で育つ野菜が多いのかな。	A基準 育つ場所や食べる部分、栄養の視点で夏野菜と冬野菜の特徴に気づき、それぞれの特徴と季節を関連させて考えることができる。(発言・ワークシート) ◁B基準で達していない児童への手立▷ 具体的な視点で比べさせ、違っているところがないか考えさせる。	ワークシート
	5	5 栄養教諭から、夏野菜と冬野菜が使われている給食について教えてもらう。	T1 田代先生に夏野菜と冬野菜がどんな料理に使われているか教えてもらいましょう。 T2 サツマイモは、さつまいも汁に使っています。 ◇夏野菜と冬野菜は、それぞれおいしい給食になっているな。 ◇もっとおいしい食べ方を知りたい。	・夏野菜と冬野菜のおいしい食べ方や給食との関連について理解を深める。 ・児童が苦手な野菜の栄養等を知り、進んで食べる心情を高める。 ・全ての野菜は、大切に育て「水やり」等のお世話が必要であることを取りあげ、植物に命があることを確認する。	パワーポイント資料
振り返る	5	6 学習を振り返る。 (1) ワークシートに学習の振り返りを書く。 (2) 発表する。	T1 今日の学習で分かったことの中からお家の方に教えたいことを書きましょう。	・家庭へ広げる意欲を高める。 ・地域で見つけた旬の野菜を食べることと今後の野菜の生長への期待を高める。	

第2学年 生活科 「めざせ！野さいはかせ」授業の様子

■食育授業の「さ」…さがす

夏野菜と冬野菜を育ててきた経験や食育タイムで身に付けた知識を振り返り、野菜について「食べる部分」と「育つ場所」の2つの視点でそれぞれの特徴を確認し、夏野菜と冬野菜という大きなまとまりでの特徴にも目を向けていった。

■食育授業の「し」…調べる・知る

野菜一つ一つの特徴や栄養教諭からの野菜の栄養の働きの話をもとに、夏野菜と冬野菜を比較し、それぞれの違いについて考えた。まず、一人で気付いたことをまとめ、次に黒板に掲示してある資料等を指示しながら4人グループで考えを出し合い気づきを深めていった。

■食育授業の「す」…ステップアップ

栄養教諭から育ててきた野菜の栄養の働きについての話を聞き、夏野菜と冬野菜の特徴について考えを深めた。

■食育授業の「せ」…生活にせまる

夏野菜と冬野菜の特徴を全体で出し合った後、栄養教諭の話から夏に夏野菜、冬に冬野菜が使われている給食の献立を聞き、旬の野菜が使われている給食のよさや野菜の美味しい食べ方について知った。

■食育授業の「そ」…育てる

学習して分かったことを学習シートにまとめる場面で、「お家の人に伝えよう」という目的で本時の学習のまとめを書いた。

<成果 (○) 及び課題 (▲) >

- 資料をもとにグループで話し合うことで、気づきが増えたり、考えを深めたりすることができた。
- 冬野菜と夏野菜の特徴を考える視点の一つに栄養教諭からの栄養の話を入れたことで、夏野菜と冬野菜を旬に食べることのよさについて気付かせることができた。
- 育ててきた野菜が給食でどのように使われているかを知ったことで、冬野菜の収穫や給食、家庭での料理についての関心を高めることができた。
- 栄養教諭が T2 として専門性を発揮し、共に授業を行ったことで、ICT等による資料提示や板書、個への支援においてスムーズに授業を進めることができた。

▲ 夏野菜と冬野菜の特徴を一人で考える場面、グループでの話し合いの場面でも個人差が大きかったため、全体発表の場でより丁寧に押さえる必要があった。また、学びを家庭へとつなげていく工夫をさらに行っていく必要がある。



し【写真や図をもとに、気づきを深める】

野菜には、それぞれに色々な栄養の働きがあるんだね。



す【栄養教諭の話でステップアップ】

夏の野菜は、茎で育つもの多くて、冬の野菜は、土の中で育つものが多いね。



せ【全体発表で、夏やさいと冬やさいの特徴を区別してまとめる】